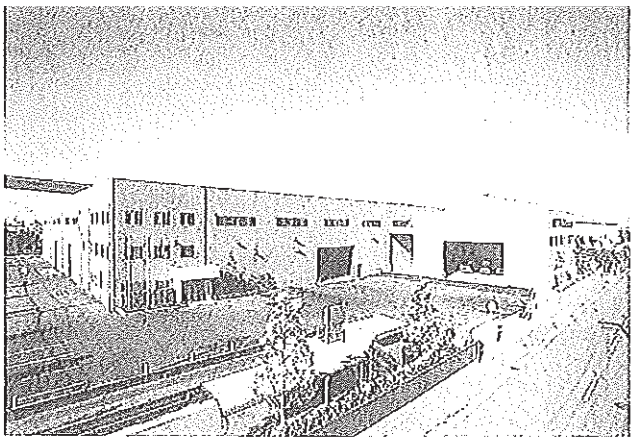
扱い回復で再稼働

1st物流センター、1年半ぶり

初の2拠点体制 月4000トン視野に

メタルドゥ

特金スクラップ商社のメタルドゥ（本社＝大阪市西区、藤田國廣社長）は扱い数量が回復したため、9月から「1st物流センター」（大阪市此花区）を1年半ぶりに再稼働する。これで初めて昨春稼働の「2nd物流センター」（神戸市中央区）と合わせた物流2拠点体制が立ち上がる。6月に取得した保税倉庫と併せて活用し、全社の扱い数量は現状比60％増の月4000トンを目標とする。



保税蔵置場も開設した1st物流センター

1st物流センターは2005年の竣工以来、同社の主力ヤードであったが、08年秋のリーマン・ショックによる扱い数量の急減と、09年3月に2nd物流センターが完成したことから、2nd稼働と同時に休眠状態となっていた。

しかし今年に入り、同社の扱い数量は急回復しており、7月は2nd物流センターの能力いっぱいの2500トンに達した。そこで2ndの業務緩和と、今後さらに扱い量を増やすため、1stの再稼働準備に入った。

1st物流センターの敷地面積は1万300平方㍍、延べ床面積は6830平方㍍。主な設備にはクレーン4台、計量機8台、フォークリフト9台、破砕機2台、危険物取り扱い・貯蔵所などがあり、このほど磁力選別機も新たに導入している。扱い能力は月1500トン。

再稼働後の1st物流センターでは、主に電池系スクラップやタンタル・タングステンなどの重金属類、チタン系スクラップ、セカンダリー（2級品）などを扱う予定。人員は3班ある検収チームのうち1班（4人）と事務スタッフ1人を2ndから移し、後任に数人を新採用して補充した。

また、同社は6月1日付で1st物流センター内に保税蔵置場を開設している。広さは453平方㍍、収容能力は500トンあり、海外で発生したスクラップや地金の保税貿易が可能となる。今後はアジアや欧米に進出する日系企業のニーズにも対応していく方針。

物流2拠点体制の本格立ち上げ後は業務サービスのさらなる向上をめざしており、山頬敏彦専務は「入荷から5日以内の検品を厳守し、その短縮をめざす」とその意気込みを語っている。